



生きものを育む 豊かな森

町全体が森におおわれている金山町。森は四季それぞれに美しい姿を見せながら、その懐に抱くようにたくさんの生きものを育んでいます。

春、森のなかで真っ先に目覚めるのはフキノトウでしょうか。やがて芽吹き季節、春のよろこびを告げるのはカタクリの花。若葉の森を飛びながら鳥たちが歌いはじめると、木々の下では、コゴミやウド、ワラ

びなどの山菜が、次々と頭をもたげます。

濃い緑の葉を茂らせ、枝を伸ばす夏の盛りの森は、カブト虫やアゲハなど、虫たちの天国。子どもたちが虫を追いかけ森を走りまわっています。そして、秋。森は至福の時間に満たされます。ドングリ、山グリ、山ぶどう、きのこなど、たくさんの実に喜ぶのは人間ばかりではありません。眠りにつく前の動物たちも、きつと妖精たちも、森の恵みを求めて木々のなかで遊んでいます。

にぎやかな森の 学校を見守る気高い山

こうした森と上手につきあっているのが金山町の人々。恵みを森からもらい、その生かし方を生活の知恵

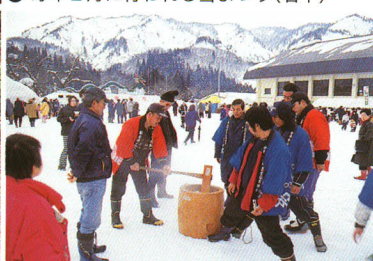
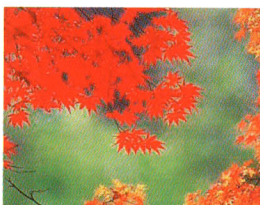
ブナ・ミズナラの深い森は、一年を通じて美しく彩られる。ゆりかごのように、たくさんの植物や動物を育みながら。

妖精が棲むまち、金山②

森に暮らす

としてたくわえてきました。今、町ではこうした生活文化を、都会からきた子どもたちに伝える活動が盛んです。炭焼きをしたり、豆腐づくりをしたり……。子どもたちは大喜びで体を動かしています。「自然教育村」と呼ばれるこの活動は、いわば森のなかの学校なのです。

心暖まる交流を変わらぬ姿で見守るのは、ひととき高く雄大な御神楽岳。かつて信仰の山として敬われた山は、ブナの原生林の中、山登りが楽しめる山として親しまれています。山頂からの眺めは、森の豊かさそのもの。忘れられない絶景です。



【森の歳時記】

- ① 毎年6月第1日曜日に行われる御神楽岳山開き(左上)
- ② 中学校生徒によるワラビ採り大会(左下)
- ③ 毎年2月に行われる雪まつり(右下)